

コミュニティベースのCAP推進事業 ～安心・自信・自由の地域づくり～



CAPこどもワークショップ（就学前）



上の写真：映像制作講座 下の写真：おにぎり大会



ドコモ市民活動団体助成事業 2021年度報告書

2年目の事業

とよなか人権文化まちづくり協会は、昨年に引き続き、ドコモ市民活動団体助成事業を受けて、2021年9月からCAP（子どもへの暴力防止プログラム）を地域のおとなや学校園、児童養護施設に届けるプロジェクトを自主事業として実施しました。CAPプログラムの実施は、特定非営利活動法人CAPみしま・大阪の協力を得ています。2年目の事業は、「コミュニティベースのCAP推進事業～『安心・自信・自由』の地域づくり～」を目的に、児童養護施設「翼」および校区の学校園にCAPを届けるとともに、「安心・自信・自由」を合言葉にした地域づくりを進める力量を持った組織へと成長していくことを活動の目的としています。

この1年間、協会が地域の学校園とCAPをつなぎ、児童養護施設はじめ周辺のこども園、小学校（克明小学校2年生、4年生、箕輪小学校2年生）、中学校（第五中学校2年生）の子どもたち279人にCAPプログラムを届けました。あわせて、おとなの理解を得るために「CAPおとなワークショップ」を実施（公開ワークショップや子どもに届ける事前の保護者や教職員ワークショップなど）、延べ209人が参加しました。

2年目はCAPプログラムにくわえて、おとなカフェや映像制作講座、おにぎり大会なども実施しました。助成金は、豊中市内での「CAPおとなワークショップ」の実施、協会周辺校区及び他地域での学校園、児童養護施設でのCAPプログラム実施などの事業費にあてられます。

また、「豊中市人権平和センターにおける人権啓発等に係る業務を委託する事業者の履行状況の評価について（答申）」の総括評価において「自主事業で実施している『ドコモ市民活動団体助成事業』と連携し、積極的に事業を実施している点を評価する」と高く評価されました。

CAPとは？

CAPは、子どもへの暴力（いじめ、暴言、痴漢、ストーカー、虐待などあらゆる暴力）に対抗する人権教育プログラムです。CAPプログラムでは、子どもたちに「人権」「安心して生きる権利」「自信を持って生きる権利」「自由に生きる権利」というわかりやすい言葉と寸劇で伝えます。そして、もしも大切な権利が奪われた時には、「イヤだと言ってもいい」「逃げてもいい」「信頼出来るおとなに相談してもいい」という具体的な解決方法を伝えています。子どもへCAPプログラムを届ける時には、「おとなワークショップ」を開催して保護者や教師など周りのおとなに子どもの声を聴くことの大切さと聴き方を理解してもらいます。このように、学校・地域が力を合わせて「安心・自信・自由」を合言葉にした地域づくりを進めるプログラムです。

※CAPプログラムを紹介した動画をまちづくり協会ホームページに掲載しています。

1本5分程度で非常にわかりやすくまとまっていますのでぜひご覧ください。QRコードからアクセスできます！

- ①CAPってなに？
- ②CAPのプログラム
- ③CAPの人権
- ④エンパワメント
- ⑤『聴く』ことは誰でもできる心の手当て



2020年度

おとなワーク8件209人
子どもワーク6件292人

2021年度

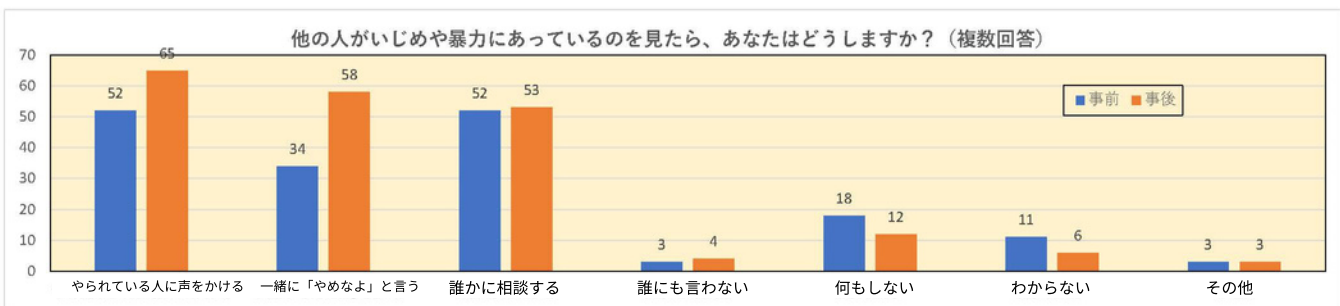
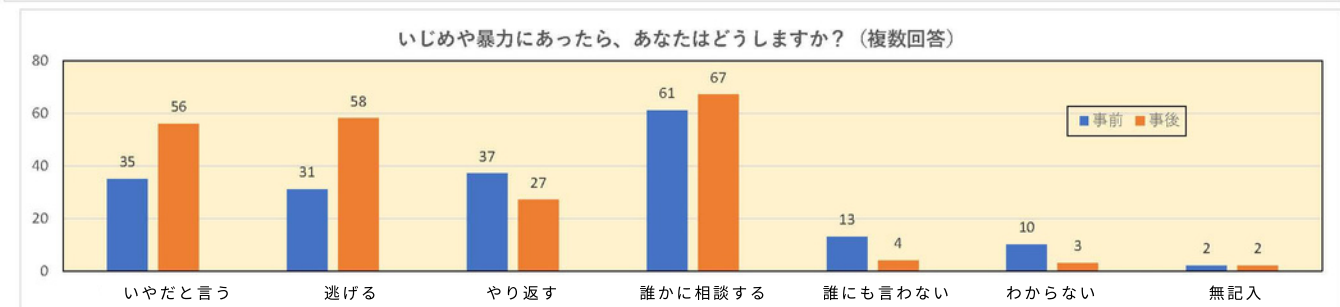
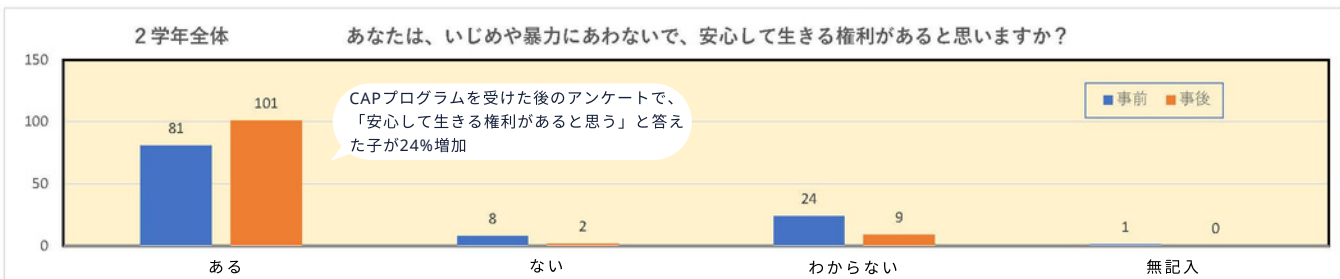
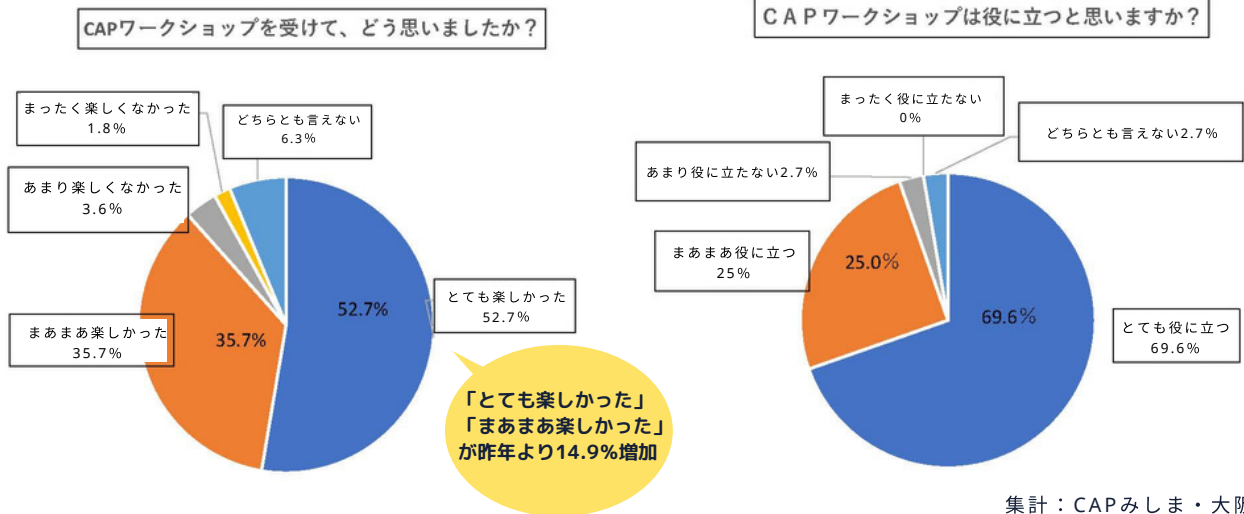
おとなワーク7件111人
子どもワーク9件317人

CAP事業の成果

おとなワークショップに参加した98%の人が「子どもにCAPは必要」と答え、ティーンズプログラムを受けた子どもの88.4%が「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」と答えました。

また、プログラム終了後のアンケートでは「安心して生きる権利がある」と答えた子どもが事前アンケートよりも増えました。

子どもワークショップ・中学生暴力防止プログラム「事前・事後アンケート」集計



集計：CAPみしま・大阪

2021年度活動実績（2021.9.1～2022.8.31）

日時	内容	対象	人数
21.9.15	おとなワークショップ	市民、子どもに関わるおとな	20人
21.11.24	キックオフミーティング	五中、克明小、箕輪小、ともだちこども園、翼、CAPみしま大阪	11人
21.12.15	おとなワークショップ	ともだちこども園保育士	30人
21.12.20～22	こどもワークショップ	ともだちこども園年長クラス	20人
22.1.6	おとなワークショップ	第五中学校教職員	12人
22.1.26	おとなカフェ「子どもへの『暴力』を考える」セミナー	市民	14人
22.1.27～28	中学生ワークショップ	第五中学校2年生	126人
22.2.16	保護者ワークショップ	第五中学保護者	10人
22.3.28	こどもワークショップ	こども多世代ふれあい事業の子ども	20人
22.3.29	youtube動画を作ろう！（映像制作講座）	こども多世代ふれあい事業の子ども	21人
22.3.30	おにぎり大会	おとなと子ども	50人
22.6.11	保護者ワークショップ	箕輪小学校保護者	13人
22.7.27	教職員ワークショップ	箕輪小学校教職員	20人
22.8.8～10	こどもワークショップ	児童養護施設「翼」幼児	8人
22.8.8～9	こどもワークショップ	「翼」小学生、中学生	10人
22.8.23	教職員ワークショップ	克明小学校教職員	6人
22.8.30	こどもワークショップ	箕輪小学校2年生	59人
22.9.1	こどもワークショップ	克明小学校4年生	74人

おとなカフェ



「子どもへの暴力を考える」21.1.26

お話：木村里美さん（J-CAPTAチーフディレクター）

おにぎり大会 21.3.30



50人を超えるおとなと子どもが参加してくれました！

映像制作講座

youtube動画を作ろう！21.3.29

進行：森本洋介さん（弘前大学准教授）、田島知之さん（京都府立大学非常勤講師）



プログラム

- 活動① 動画の視聴
- 活動② 動画の分析
- 活動③ 自分たちの作品を考える
- 活動④ 作品制作
- 活動⑤ 上映会と振り返り

メディア・リテラシーの観点からCAPで学んだことをテーマに映像を制作しました！

作品テーマ

「戦争反対」、「いじめはやめて」、「制限はやめて」、「自分が好きなことを好きと言える社会に」など計5本

おとなワークショップの感想

小学校では

子どもたちに寄り添っていくことで、子どもたちの中に「安心・自信・自由」の意識を育み、子どもたちが本来持っている力を引き出せることがわかった。

もっと子どもの話を聞いてあげないといけないと思った。

「人権」という言葉だと難しいが、「安心・自信・自由」という言葉を使うと、子どもたちも分かりやすく、話が入りやすいんだらうなと感じました。

子どもを暴力（誘拐など）から守るために、「してはいけないこと」はよく言い聞かせていたが、「これならしてもいいよ」の呼びかけをするべきだと気づきました。

子ども自身が「けんり」を知ることが本当に大切なのだと思いました。小さい頃から、この「けんり」の話があれば、自分を守る根底になるのではと思いました。

中学校では

子どもはなかなか親に相談できないので、子ども向けのワークショップを今後も活発に継続していただきたい。

自分自身も温かい言葉をかけてもらおうと気持ちよくなることを改めて実感しました。

生徒が困ったときや助けてほしいと話してきたときは、まずゆっくりは話を聴いてあげる大切さを改めて感じました。

話を聴くだけでなく、発言したり周りの人と意見交換することでより考えやすくなる。

こどもワークショップの感想

安心・自信・自由を人に奪われないように生きる

普段の生活じゃ知れないことを学べて良かった

誰にでも人権があるんだということ

楽しかった

いやなことがあったら相談したい

こんなとき、どうする？

CAPおとなワークショップでよく出る質問です。まずは子どもの話を聴きましょう。

Q 地域で傷害事件などが起こると、どうしても子どもに「ひとりで遊んじゃダメ」など、子どもの行動を制限してしまいます。こんな時はどうすればいいのでしょうか？

A 地域で傷害事件などが起こると学校も集団下校になり、おとなも子どもも緊張してしまいますね。子どもはとも怖い思いをしています。ゆっくりと子どもの気持ちを聴きましょう。気持ちを話すだけでも子どもの不安は少なくなります。

Q すでに子どもも大きくなっています。でも、地域にいるおとなとして子どものことがすごく気になります。何かできることはありますか？

A 公園でひとりポツンとしている子に声をかけること、公園で暴れている子に「どうしたの？」と声をかけること、小さい子を連れて大変そうな保護者にさりげなく手を差し伸べること。私たちができることはたくさんあると思います。

エンパワメント

Q 家で子どもと接していると、イライラしてついつい手が出てしまいます。すぐに後悔しますが、その繰り返しです。

A そうですね。余裕がないとついつい声を荒げたり、手を出しそうになってしまうことがありますね。でも、子どもは「怒られた！」「こわい！」という感情だけが残って、保護者が伝えたいことは伝わっていないかもしれません。怒りの感情にとらわれた時は、保護者自身が疲れていないか、余裕を失っていないかをちょっと立ち止まって考えてみましょう。

Q 学校の教員ですが、お家で心配な子どもがいます。お家でのことまでなかなか見えないので何もできないのですが、どうすればいいのでしょうか？

A 学校の先生ができることはたくさんあります。もし、子どもさんが何か相談してきたときは、じっくりと聴きましょう。ちゃんと聴いてくれるおとなが近くにいるだけでも子どもは安心します。相談にきてくれなくても「いつでも聴くよ」というメッセージをさりげなく伝えましょう。そんな時は子どもに無理に言わせようとせずじっくりと関係を作っていきましょう。

相談窓口

おとなもしんどい時は話を聴いてもらいましょう！

人権相談	月・水・金 9時～17時 06-4865-3655	一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
外国人のための多言語での相談	月・火・木・金11時～16時 土13時～16時 06-6843-4343	とよなか国際交流センター
女性の生き方総合相談	第1～第4月・木13時～17時 第1～4火・金10時～12時 06-6844-9820	すてっぷ (とよなか男女共同参画推進センター)
とよなかっ子ダイヤル（18歳未満の子ども専用フリーダイヤル）	24時間365日 0120-307-874	豊中市こども相談課
子ども家庭相談室	月・火・木 10時～20時 06-4394-8754（おとな専用）	子ども情報研究センター

3年目の事業

2022年9月1日から3年目の事業がスタートしました。3年目の活動は「児童養護施設『翼』を支える『安心・自信・自由』の地域づくり～CAP推進事業から」を目的に、校区の学校園や児童養護施設「翼」でのCAPプログラムの実施やおにぎり大会、

映像制作講座にくわえて、「翼」を支える市民の「円卓会議」を実施しています。学校、地域、家庭が顔の見える関係を作り、子どもの「安心・自信・自由」を保障できる地域をめざします。

とよなか人権文化まちづくり協会とは

豊中市における部落問題の解決のための施策をはじめ、豊中市と連携・協力して差別のないコミュニティづくり、すべての人の人権が尊重される人権文化のまちづくりの実現を目的にして学習・啓発、相談、こどもの居場所事業、高齢者事業、地域交流事業などを実施しています。

人権情報啓発事業

- ・人権文化まちづくり講座
- ・人権パネル展
- ・情報紙の発行
- ・資料室の管理運営
- ・非核平和フロア運營業務
- ・フィールドワークの受け入れ
- ・講師派遣
- ・ブックトーク



人権相談支援事業

- ・人権相談
- ・総合生活相談
- ・地域交流事業（高齢者ふれあい事業、ほっとス、トークマインド）



人権教育交流事業

- ・こどもの学び・居場所事業（豊中）
- ・学習支援
- ・こども多世代ふれあい事業（蛍池）



編集・発行：一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
2023年1月

豊中市岡町北3-13-7 人権平和センター豊中内
電話：06-6841-5300 FAX：06-6841-6655
mail:37306@nifty.com



この冊子は「ドコモ市民活動団体助成事業」からの助成金により作成しました

